



A / 2階リビングより北を見る
キッチンを含め造作家具を主体とし、
間口の細くて長いイレギュラーな空間
に合わせた計画としています。

キッチンをリビング収納などの機能
も持たせる事で、調理場・収納・釣り
棚・食卓・パーテーションなど多様な
機能を持たせています。



日/玄関より南を見る
鉄骨筋交いをあらわし、水平方向の奥行き感
を出しています。
奥奥の光を玄関より感じ取る事が出来ます。

階段間仕切り壁をオープンにし、2階と垂直
方向に空間をつなげ、双方のスペースからそ
の先にも空間が繋がっている感覚となるよ
うにしています。



Wのリノベーション

奥行き感覚にて生まれる住まいの居心地

二間間口の3階建て軽量鉄骨造の住宅であった為、部屋の広さ感覚には限度を感じました。

そこで一般的な空間の視覚的広さでは無く、空間の奥行きによる感覚的広がりを持たせる事にしました。

間仕切り壁だった部分の鉄骨筋交いを化粧としてあらわし、通り土間の様な水平方向の奥行きを造り、分離されていた1階と2階を階段によって空間をゆるやかにつなぎ、垂直方向にも奥行きを感じられるようにしました。

どこか長屋のような「ゆるやかに繋がっている住まい」になったと思います。



Fノリビングより東を見る
キッチン家具（パーティション）により、ソファに座った時はリビングがやや仕立したスペースの感覚となります。



G



H

Wのリノベーション

平成8年に積水ハウスで建てられた住宅のリフォームです。
メーカーの技術により建てられた軽量鉄骨造3階建てのこの住宅は、既設図面が無い中でも、鉄骨筋交いが入っている事は安易に想像出来、2階間口の重層長屋のような形状から現れる内部の空間は、各層で個々の部屋として完結されており、少し窮屈な印象を受けました。

そこで今回は住まいの奥行きを作る事にしました。
1階の玄関を上開空間として大きく拡大し、オープンスペースのような広がりを持たせました。そこには従来構造として隠れていた鉄骨筋交いも露出してきます。この21年ぶりに北柱としてあらわれた筋交いは、奥庭からの光を玄関側へ通し、上開空間からその奥庭が望めるような可家のようなスペースとなりました。

更に各層を分断していた階段も、間仕切り壁をオープンにし、2階のLDKは1階のオープンスペースと緩やかに繋げて奥行き感覚の広がりを持たせるようにしました。部屋の広さ感覚は違っている動線も体感として残ると考えてます。
また、キッチンという機能だけでは無い家具の造り（リビングの収納・カウンター・飾り棚などを兼用）とし、家の中心的位置に配置し、パーティションとしての昨日も取り入れ、「手前とその奥」という奥行き感を出しました。
スペースが限られる場合は特に寸法にシビアになる為、既製品の家具ではサイズの合う選択数が少なくなりやす。今回は置き家具まで設計し、配置する事で成立する住まいを目指しました。
家主は物のコレクションが好きで、身近な好きな物に囲まれた生活を過ごしています。

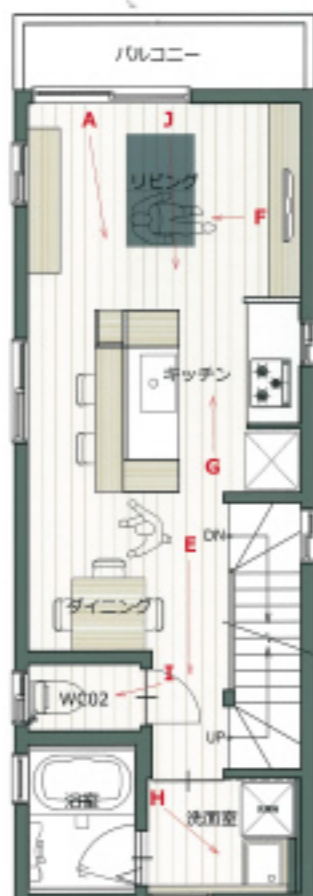
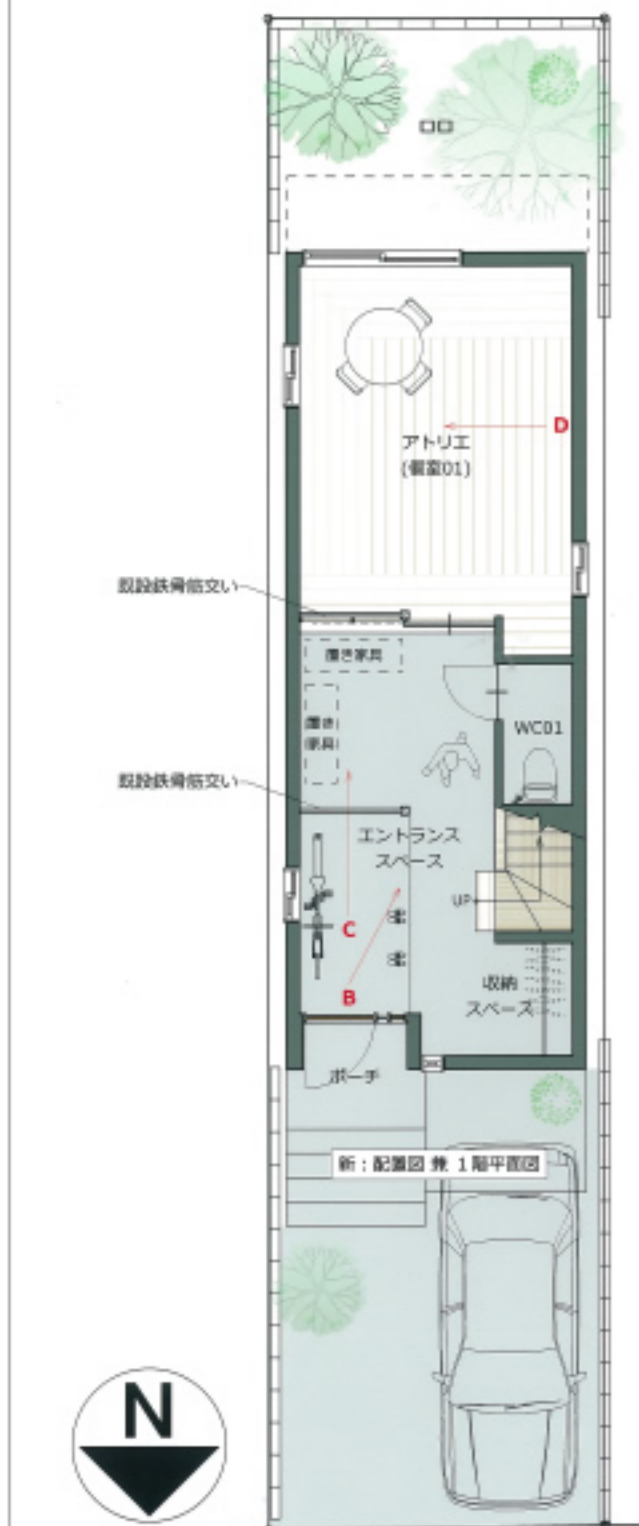
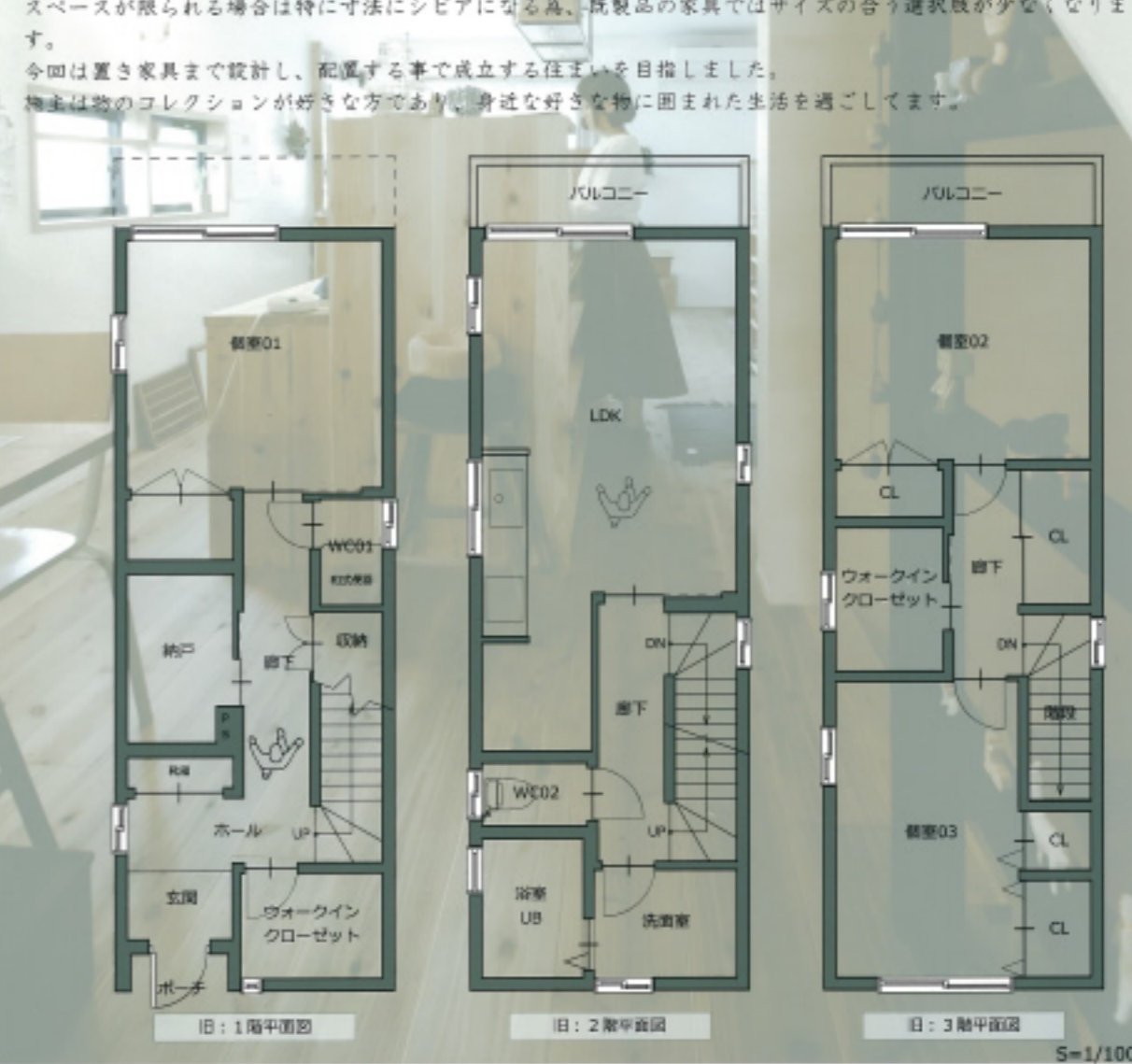
■所在地:名古屋市天白区 ■築年数:21年 ■軽量鉄骨造3階建て ■延床面積:105.17㎡(=リフォーム面積) ■工事期間:4ヶ月 ■工事完了年月:平成29年7月



I



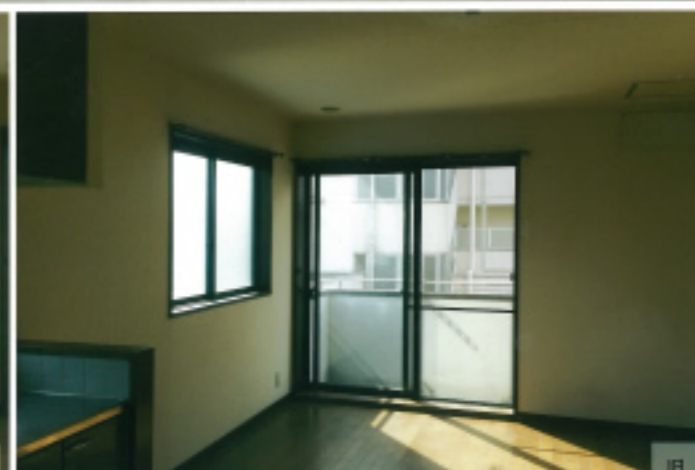
J



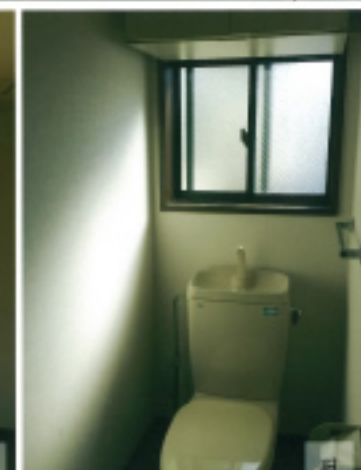
・図面はすべて S=1/100
・リフォーム施工範囲は室内すべてに該当する



旧



旧



旧